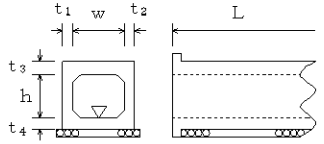
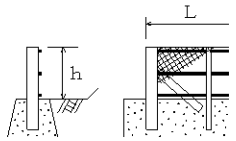
出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

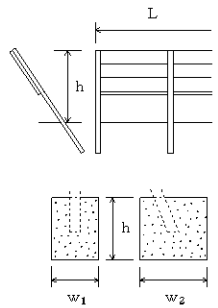
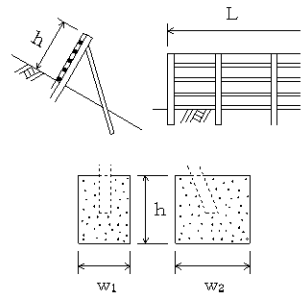
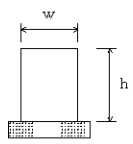
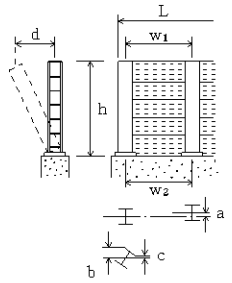
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2	1	遮音壁支柱製作工	部材	部材長 ℓ （m）	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		
10 道路編	1 道路改良	9 カルバート工	6		場所打函渠工	基準高 ▽		●±30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。		
						厚さ	t_1～t_4	△－20			
						幅（内法）	w	△－30			
						高さ	h	△±30			
						延長L	L＜20m	△－50			
							L≧20m	△－100			
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	4		落石防止網工	幅	w	△－200	1 施工箇所毎		
						延長	L	△－200			
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	5		落石防護柵工	高さ	h	△±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延長	L	△－200	1 施工箇所毎		

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	6		防雪柵工	高さ h		△±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎		
						延長 L		△－200			
						基礎	幅 w_1, w_2	△－30			
							高さ h	△－30			
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	7		雪崩予防柵工	高さ h		△±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎 全数		
						延長 L		△－200			
						基礎	幅 w_1, w_2	△－30			
							高さ h	△－30			
						アンカー長 ℓ	打込み ℓ	－10%			
							埋込み ℓ	－５%			
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	4		遮音壁基礎工	幅 w		●－30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
						高さ h		●－30			
						延長 L		－200			
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	5		遮音壁本体工	支柱	間隔 w_1, w_2	±15	施工延長５スパンにつき 1 箇所 1 施工箇所毎		
							ずれ a	10			
							ねじれ b－c	5			
							倒れ d	h×0.5%			
						高さ h		△＋30, －20			
						延長 L		△－200			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

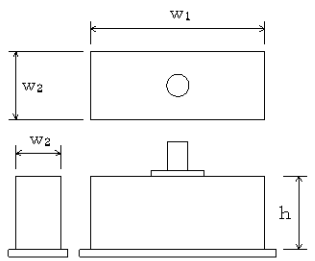
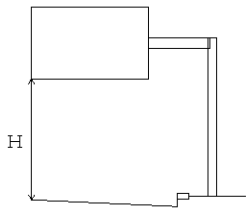
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値（X）	10個の測定値の平均（X_{10}）			
							中規模以上 / 小規模以下	中規模以上			
10 道路編	2 舗装	4 舗装工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	●±50	—	基準高は片側延長40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。 ※両端部2点で測定する。	工事規模の考え方 中規模工事とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上、あるいは基層及び表層用混合物の総使用量が500トン以上、小規模とは施工面積が2,000㎡未満、あるいは基層及び表層用混合物の総使用量が500トン未満とする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、平均値（X_{10}）について満足しなければならない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						厚さ t＜15cm	●－30	●－10			
						厚さ t≧15cm	●－45	●－15			
						幅	●△－100	—			
10 道路編	2 舗装	4 舗装工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚さ	●－9	●－3	幅は、片側延長80m毎に1箇所の割で測定。厚さは、片側延長200m毎に1箇所コアーを採取して測定。		
						幅	●△－25	—			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

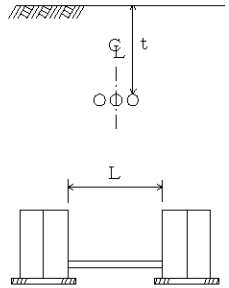
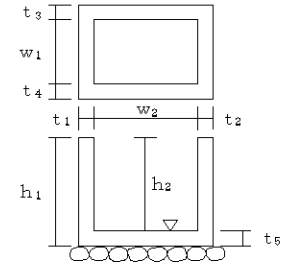
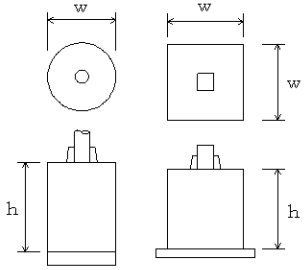
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	2 舗装	5 排水構造物工	9		排水性舗装用路肩排水工	基準高 ▽	●±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延長 L	△−200	1 箇所／1 施工箇所		
10 道路編	2 舗装	7 踏掛版工	4		踏掛版工（コンクリート工）	基準高	△±20	1 箇所／1 踏掛版		
						各部の厚さ	△±20	1 箇所／1 踏掛版		
						各部の長さ	△±30	1 箇所／1 踏掛版		
					（ラバーシュー）	各部の長さ	△±20	全数		
						厚さ	—			
					（アンカーボルト）	中心のずれ	△±20	全数		
						アンカー長	±20	全数		
10 道路編	2 舗装	9 標識工	4	1	大型標識工（標識基礎工）	幅 w_1, w_2	△−30	基礎一基毎		
						高さ h	△−30			
10 道路編	2 舗装	9 標識工	4	2	大型標識工（標識柱工）	設置高さ H	△設計値以上	1 箇所／1 基		

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

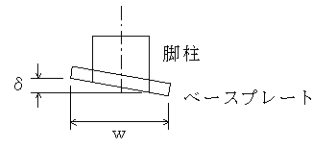
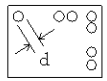
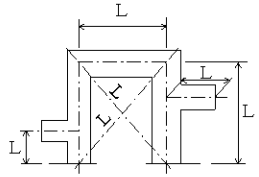
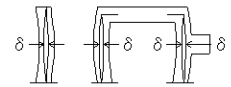
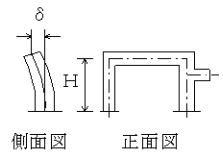
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5	1	ケーブル配管工	埋設深 t	●0～+50	接続部間毎に1箇所		
						延長 L	−200	接続部間毎で全数		
10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5	2	ケーブル配管工 （ハンドホール）	基準高 ▽	±30	1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		
						※厚さ t_1～t_5	−20			
						※幅 w_1, w_2	−30			
						※高さ h_1, h_2	−30			
10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	6		照明工 （照明柱基礎工）	幅 w	−30	1箇所／1施工箇所		
						高さ h	−30			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

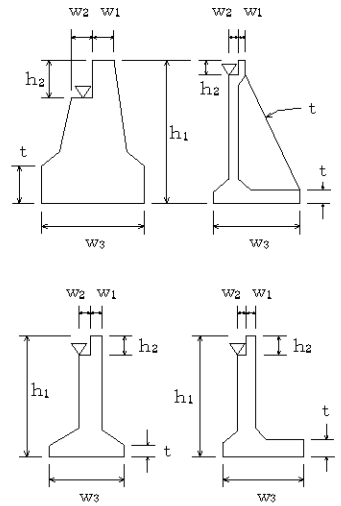
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工	部材	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ（mm）		w/500	各脚柱、ベースプレートを測定。		
							ベースプレート	孔の位置	±2	全数を測定。		
								孔の径d	0～5	全数を測定。		
						仮組立時	柱の中心間隔、対角長L（m）		±5…L≦10m ±10…10<L≦20m ±（10＋（L－20）/10）…20m<L	両端部及び片持ばり部を測定。		
							はりのキャンバー及び柱の曲がり δ（mm）		L/1,000	各主構の各格点を測定。		
							柱の鉛直度 δ（mm）		10…H≦10 H…H＞10	各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ（m）		

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

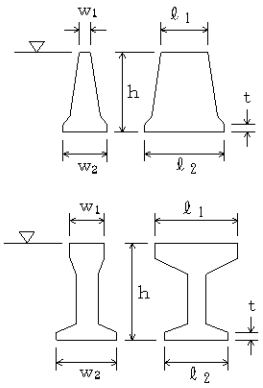
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3 橋梁下部	6 橋台工	8		橋台躯体工	基準高 ▽		●±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		
						厚さ t		●−20			
						天端幅 w_1 (橋軸方向)		●△−10			
						天端幅 w_2 (橋軸方向)		●△−10			
						敷幅 w_3 (橋軸方向)		●△−50			
						高さ h_1		●△−50			
						胸壁の高さ h_2		●△−30			
						天端長 ℓ_1		●△−50			
						敷長 ℓ_2		△−50			
						胸壁間距離 ℓ		±30			
						支間長及び中心線の変位		±50			
					支承部アンカーボルトの箱抜き規格値	計画高		＋10～－20			
						平面位置		±20			
						ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ孔の鉛直度		1/50 以下			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

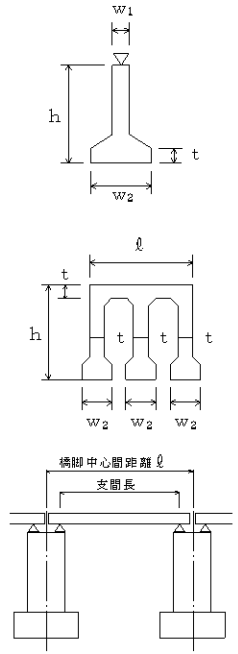
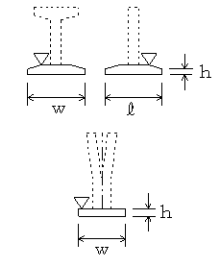
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3 橋梁下部	7 RC橋脚工	9	1	橋脚躯体工（張出式）	基準高 ▽		△±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		
						厚さ t		△－20			
						天端幅 w_1（橋軸方向）		△－20			
						敷幅 w_2（橋軸方向）		△－50			
						高さ h		△－50			
						天端長 ℓ_1		△－50			
						敷長 ℓ_2		△－50			
						橋脚中心間距離 ℓ		△±30			
						支間長及び中心線の変位		△±50			
					支承部アンカーボルトの箱抜き規格値		計画高	＋10～－20			
							平面位置	±20			
							ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ孔の鉛直度	1/50 以下			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

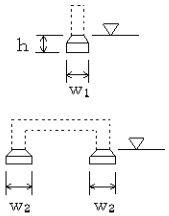
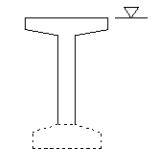
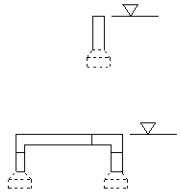
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3 橋梁下部	7 RC橋脚工	9	2	橋脚躯体工（ラーメン式）	基準高 ▽		△±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		
						厚さ	t	△−20			
						天端幅	w_1	△−20			
						敷幅	w_2	△−20			
						高さ	h	△−50			
						長さ	ℓ	△−20			
						橋脚中心間距離	ℓ	△±30			
						支間長及び中心線の変位		△±50			
						支承部アンカーボルトの箱抜き規格値	計画高	＋10～−20			
							平面位置	±20			
							ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ孔の鉛直度	1/50 以下			
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチング工（Ⅰ型・Ｔ型）	基準高 ▽		●△±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 (橋軸方向)	w	△−50			
						高さ	h	△−50			
						長さ	ℓ	△−50			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基準高 ▽	△±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 w_1, w_2	△−50			
						高さ h	△−50			
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10	1	橋脚架設工 (Ⅰ型・T型)	基準高 ▽	△±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 ℓ	△±30			
						支間長及び中心線の変位	△±50			
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基準高 ▽	△±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 ℓ	△±30			
						支間長及び中心線の変位	△±50			
10 道路編	3 橋梁下部	8 製橋脚工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

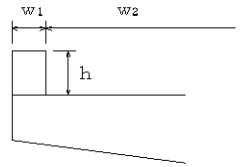
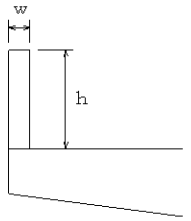
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 ℓ （m）	±3…… ℓ≦10 ±4…… ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		
10 土木工事共通編	4 一般施工	5 共通的工種	10	1	支承工（鋼製支承）	据付け高さ 注1）		●±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔（m） 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を 1mm 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1）先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2） 可動支承の遊間（La, Lb）を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3）可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
						可動支承の移動可能量 注2）		設計移動量＋10 以上			
						支承中心間隔（橋軸直角方向）	●±5	●4＋0.5×(B−2)			
						下沓の水平度	橋軸方向	1／100			
							橋軸直角方向				
						可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差		△5			
						可動支承の移動量 注3）		温度変化に伴う移動量計算値の 1/2 以上			
10 土木工事共通編	4 一般施工	5 共通的工種	10	2	支承工（ゴム支承）	据付け高さ 注1）		●±5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を 1mm 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1）先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2） 可動支承の遊間（La, Lb）を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3）可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
						可動支承の移動可能量 注2）		設計移動量＋10 以上			
						支承中心間隔（橋軸直角方向）	●±5	●4＋0.5×(B−2)			
						支承の水平度	橋軸方向	1／300			
							橋軸直角方向				
						可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差		△5			

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

単位：mm

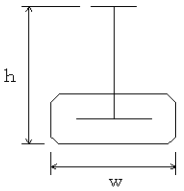
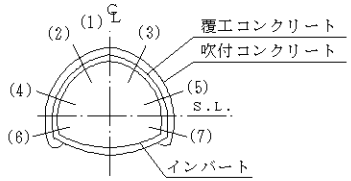
						可動支承の移動量　注3)	温度変化に伴う移動量計算値の1/2以上

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 土木工事共通編	4 一般施工	8 共通的工種	1		地覆工	地覆の幅　w_1	−10〜＋20	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						地覆の高さ　h	−10〜＋20			
						有効幅員　w_2	0〜＋30			
10 道路編	4 上部工	8 橋梁付属物工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定		
						アンカーボルト定着長	−20以内 かつ −1D以内	全数測定 D：アンカーボルト径（mm）		
10 土木工事共通編	4 一般施工	8 共通的工種	6		橋梁用防護柵工	幅　w	−5〜＋10	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
			7		橋梁用高欄工	高さ　h	−20〜＋30			
10 土木工事共通編	4 一般施工	8 共通的工種	8		検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。		
						高さ	±4			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

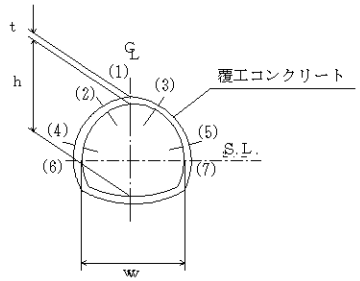
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	5 コンクリート橋上部	6 プレビーム桁橋工	2		プレビーム桁製作工（現場）	幅　w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ：スパン長		
						高　さ　h	＋10 －5			
						桁　長　ℓ スパン長	ℓ＜15…±10 ℓ≧15… ±（ℓ－5） かつ －30mm 以内			
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			
10 道路編	6 トンネル（NATM）	4 支保工	3		吹付工	吹付け厚さ	●△設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1／3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注）良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準（構造編）にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		
10 道路編	6 トンネル（NATM）	4 支保工	4		ロックボルト工	位置間隔	—	施工延長40m毎に断面全本数検測。		
						角　度	—			
						削孔深さ	—			
						孔　径	—			
						突出量	プレート下面から10cm以内			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

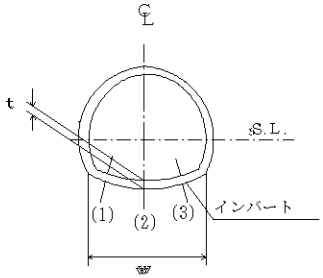
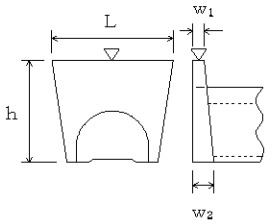
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	6 トンネル（NATM）	5 覆工	3		覆工コンクリート工	基準高（拱頂）	●±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		
						幅　w（全幅）	●−50			
						高さh（内法）	●△−50			
						厚さ　t	●設計値以上			
						延長　L	—			
10 道路編	6 トンネル（NATM）	5 覆工	5		床版コンクリート工	幅　w	●−50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚さ　t	●−30			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

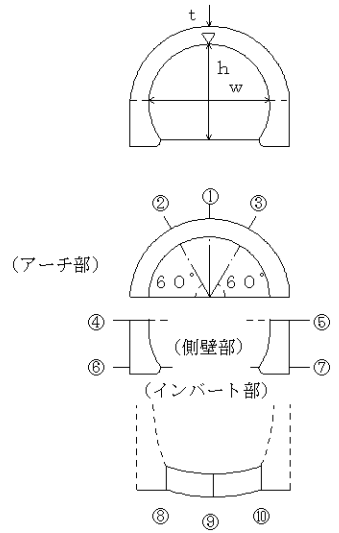
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	6 トンネル（NATM）	6 インバート工	4		インバート本体工	幅　w（全幅）	●−50	(1) 幅は、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		
						厚さ　t	●設計値以上			
						延長　L	—			
10 道路編	6 トンネル（NATM）	8 坑門工	4		坑門本体工	基準高　▽	●±50	図面の主要寸法表示箇所で測定。		
						幅　w_1, w_2	●−30			
						高さ h　h＜3m	●−50			
						高さ h　h≧3m	●−100			
						延長　L	△−200			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

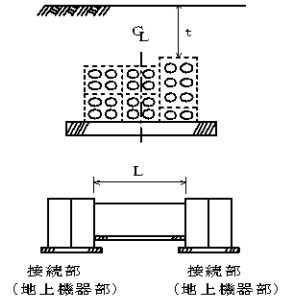
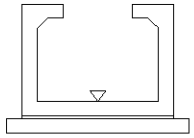
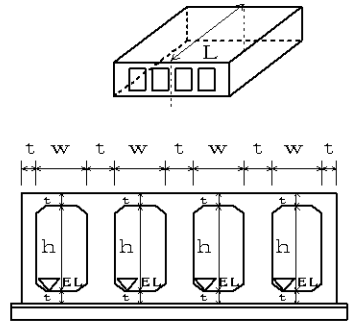
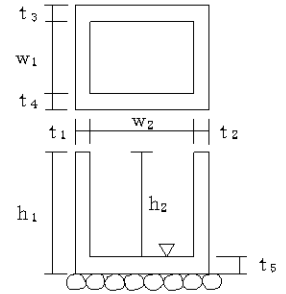
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	6 トンネル（NATM）	8 坑門工	5		明り巻工	基準高（拱頂）	●±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。		
						幅　w（全幅）	●−50			
						高さh（内法）	●−50			
						厚　さ　t	●−20			
						延　長　L	—			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

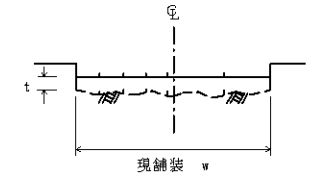
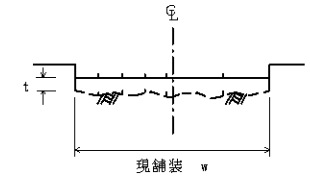
単位：mm

10 道路編	10 電線共同溝	5 電線共同溝工	2		管路工（管路部）	埋設深 t	●0～＋50	接続部（地上機器部）間毎に1箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】		
						延長 L	△－200			
10 道路編	10 電線共同溝	5 電線共同溝工	3		プレキャストボックス工（特殊部）	基準高 ▽	●±30	接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		
10 道路編	10 電線共同溝	5 電線共同溝工			現場打ボックス工（特殊部）	基準高 ▽	●±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。		
						厚さ t	△－20			
						内空幅 w	△－30			
						内空高 h	△±30			
						ブロック長 L	△－50			
10 道路編	10 電線共同溝	6 付帯設備工	2		ハンドホール工	厚さ t	△－20	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
						内空幅 w	△－30			
						内空高 h	△±30			
						ブロック長 L	△－50			

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

単位：mm

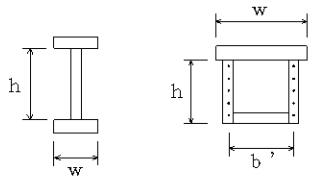
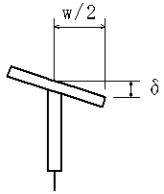
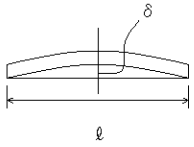
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値 個々の測定値(X)	規格値 平均の測定値(X_{10})	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	11 道路維持	3 舗装工	5		切削オーバーレイ工	厚さ　t	－9		厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長40m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅　w	－25				
						延長　L	－100				
						平坦性	—	3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀｰ（σ）2.4mm以下 直読式（足付き）（σ）1.75mm以下			
10 道路編	14 道路維持	3 舗装工	7		路上再生工	路盤工 厚さ　t	－30		幅は延長80m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。		
						路盤工 幅　w	－50				
						路盤工 延長　L	－100				

出来形管理基準及び規格値　第10編　道　路　編

●：出来形管理図表を作成する。
△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
10 道路編	12 道路修繕	3 工場製作工	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b′ (m)	±2…… w≦0.5 ±3…… 0.5＜w≦1.0 ±4…… 1.0＜w≦2.0 ±（3＋w／2）…2.0＜w
						フランジの直角度 δ (mm)	w／200
						圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ／1000

測定基準		測定箇所	摘要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼げた　トラス弦材	
床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主げた	各支点及び各支間中央付近を測定。		
—	主要部材全数を測定。ℓ：部材長 (mm)